
エンタープライズシーンにおける 生成AI導入アーキテクチャの最前線

生成AIの進化は止まらない

大規模言語モデル(LLM)は数か月単位で進化を
続けており、GPT系、Llama系、Claude系など、
多様化を続けている。
(国別、業界別を含めると選択肢は膨大！)



単一モデルへの依存は数か月で陳腐化してしまう

導入を阻む多くの壁

技術面の課題

 認証認可:
OAuth2.0/IDPとの統合

 データ連携:
DB、Blob、文章(Word、PDF)
REST API等データソースへの接続

 セキュリティ:
ZeroTrust、既存システムとの統合

 性能・スケール:
LLMレート制限、同時実行数制限

運用面の課題

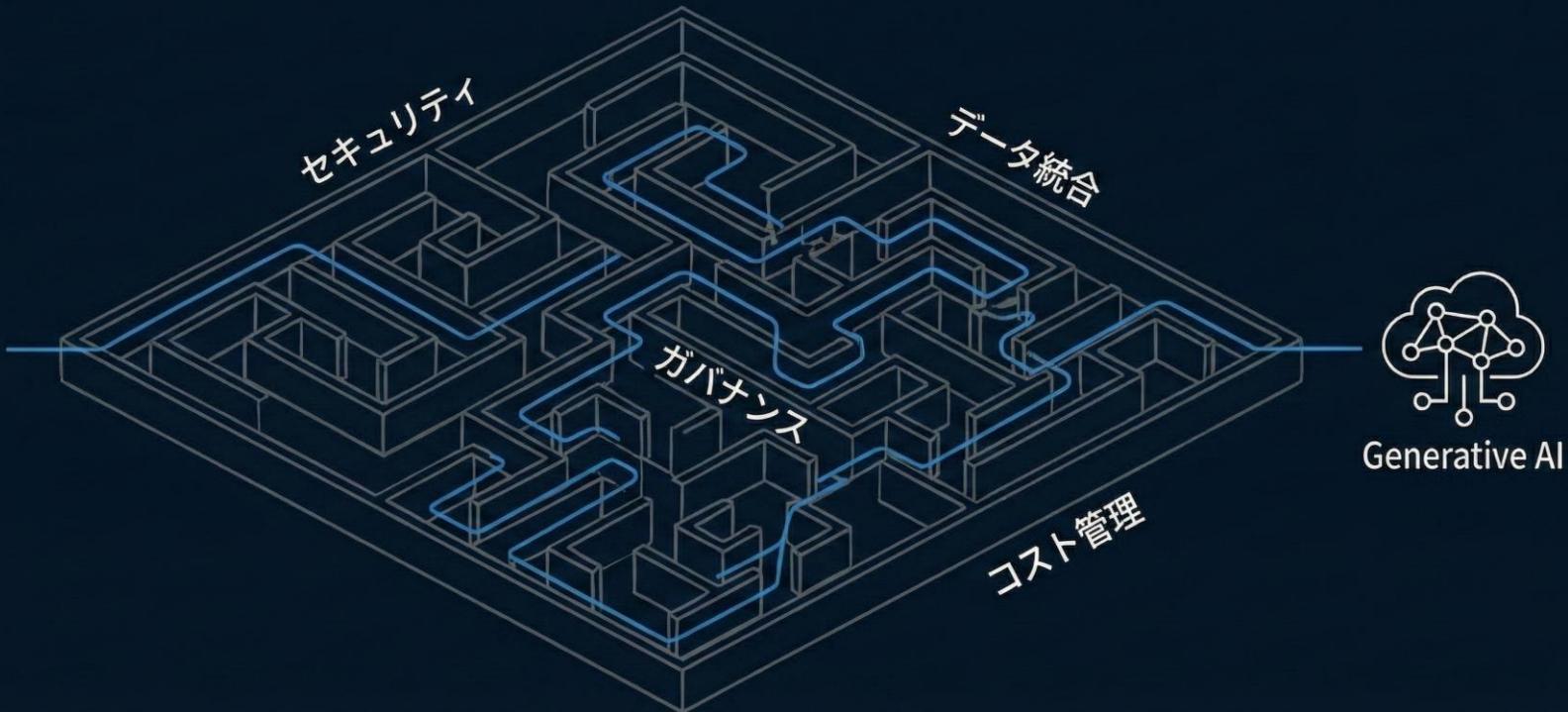
 ガバナンス:
誰がどのLLMをどのように使えるか

 コスト管理:
プロンプト単価×利用量を可視化し、
予算を管理

 監査:
全ての入出力をロギング、メタデータの
記録管理する



Enterprise



Generative AI

LLMの進化に対応する最適解: マルチLLM抽象化アーキテクチャ

アプリケーションと多様なLLM群の間に「**抽象化レイヤー**」を設けることで、複雑さを吸収し、将来のモデル変更を柔軟に対応できる基盤を構築する！

モデルの選択:
用途(コスト、性能、言語特性)に応じて最適なLLMを選択できる

開発の加速:
統一されたAPI/SDKにより、アプリケーション開発者はモデル固有の仕様を意識する必要がない

ベンダーロックインの回避:
特定のLLMベンダーに依存することなく、常に最良の選択肢を確保

Business Applications

Globant Enterprise AI

Globant Enterprise AI Assistant API

Security, Observability, FinOps

Any Cloud   

AI Foundation

LLMs

Vector Databases

Business Applications

What you have

Any Structured Data

Any REST API

Any Unstructured Data

Globant Enterprise AI

Globant Enterprise AI Assistant API

Security, Observability, FinOps

Any Cloud   

What you get

Chat Flows

Assistants

Assistants Flows

Agents

AI Foundation

LLMs

LLM Inference as a Service



Self-hosted LLM



Accelerated AI

NVIDIA Partnership



Vector Databases



AI基盤がもたらす柔軟性と統制



LLM抽象化と柔軟性

ベンダーロックインの回避:
最適なLLMをコストや性能に
応じて自由に切り替える。

ロードバランシング:
複数LLMやインスタンスにリク
エストを分散しレート制限を緩
和。

障害対策:
特定のモデル障害発生時に、
代替のモデルへと切り替える。



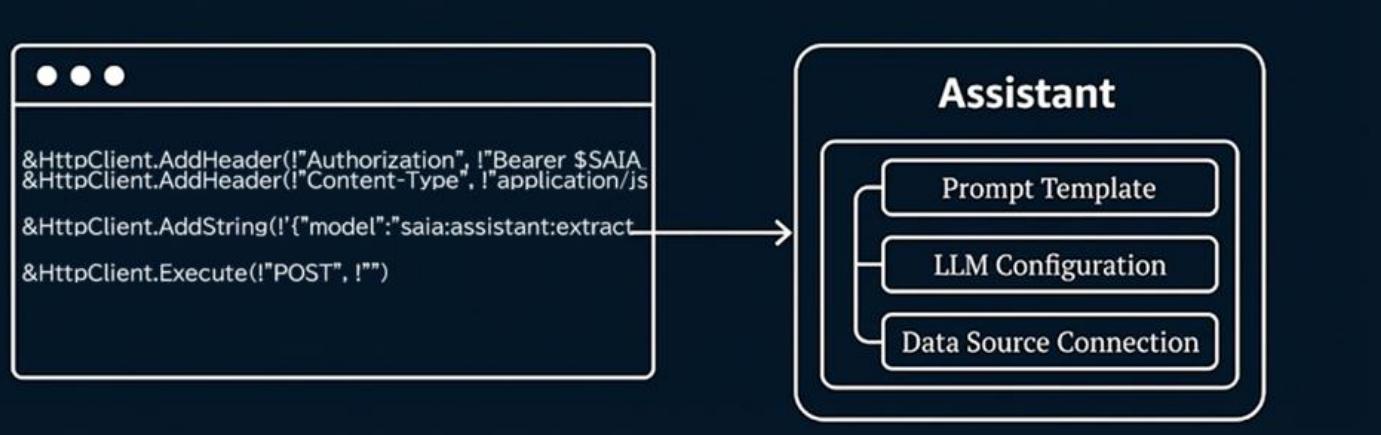
堅牢なセキュリティとガバナンス

統合認証:
Oauth2.0を利用したIDの統
合運用。企業IDでのLLM利用
を実現。

ガードレール機能:
プロンプトインジェクション対
策や不適切な入出力を監視、
制御。

可観測性:
モデルごとのコストと利用状況
を詳細に追跡・監視。

Assistant:特定のタスクを「AI関数」としてカプセル化



AI Assistantは、特定の目的(例:「契約書からリスク項目を抽出する」)を達成するためのプロンプト、LLMモデル設定、データソースを一つの単位としてパッケージ化し、APIとして公開する機能。

LLM非依存:

アプリケーションはAssistantAPIを呼び出すだけで、動作するLLMを変更してもアプリケーション側の変更は不要。

バージョニング:

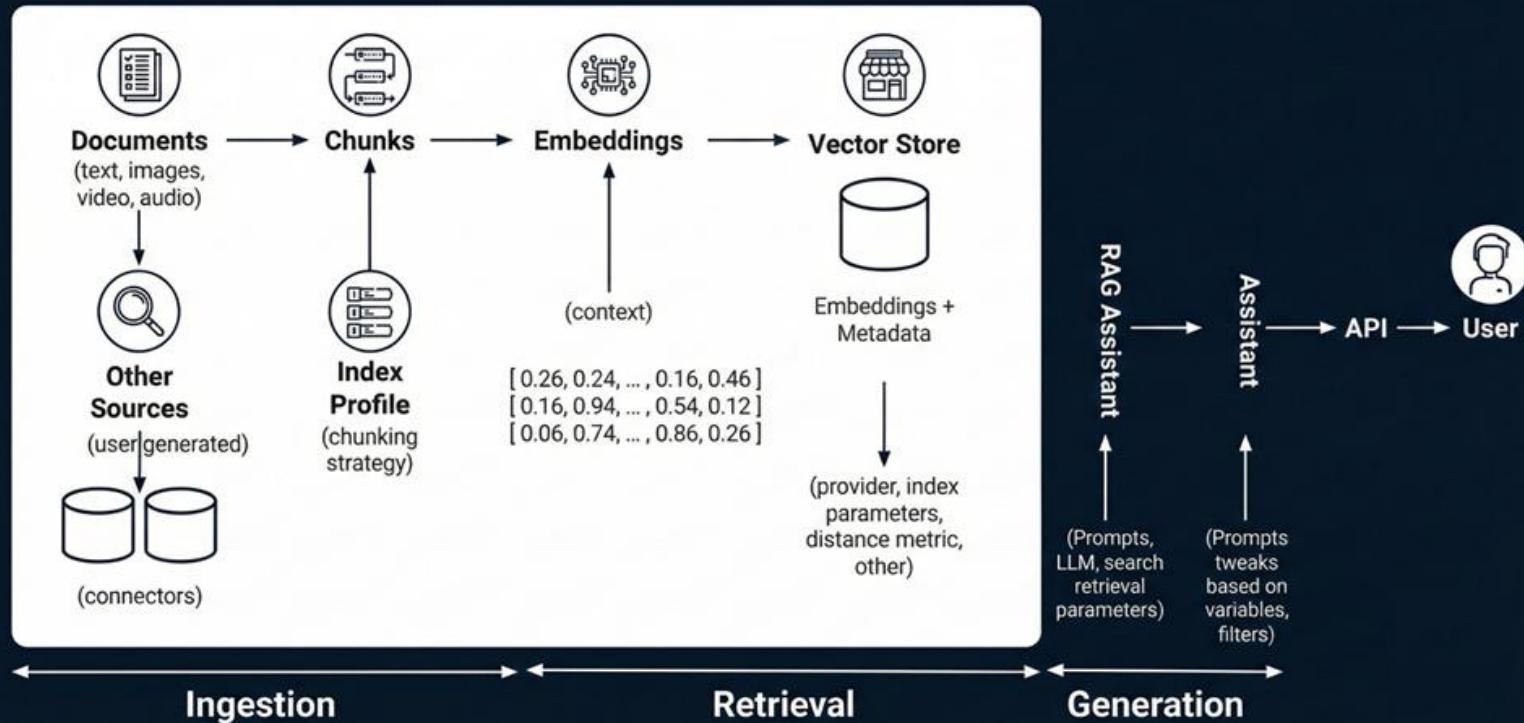
プロンプトの変更履歴を管理し、AIソリューションとしての品質を常に最新に保つ。

再利用性:

一度作成したAssistantは、様々なアプリケーションから「AI関数」として呼び出しが可能。

RAG Assistant:企業内ナレッジを安全にAIへ統合する

GeneXus Enterprise AI - RAG Architecture



The Lab (Agents):自律的なタスク遂行フレームワークへ

Agentsは生成AIを「関数」や「定義済プロセス」から、自律的にタスクを計画・実行する「実行モデル」へと拡張する概念です。大規模で複雑な目的を達成するために、複数のAIエージェントが協調して動作します。

主要なコンポーネント

Agent & TOOLS:

ビジネスリーダーから技術者まで、誰もが直感的にプロセスを設計可能。

Agentic process:

LLMによる確率論的な判断と、API等による決定論的な処理を一つのワークフローに混在させることで、柔軟性と信頼性の両立を図る。

Flows:

フローにより、各組織の特定のニーズに合わせた対話型ソリューションの作成が可能。各アシスタントやエージェントの統合を容易にします。



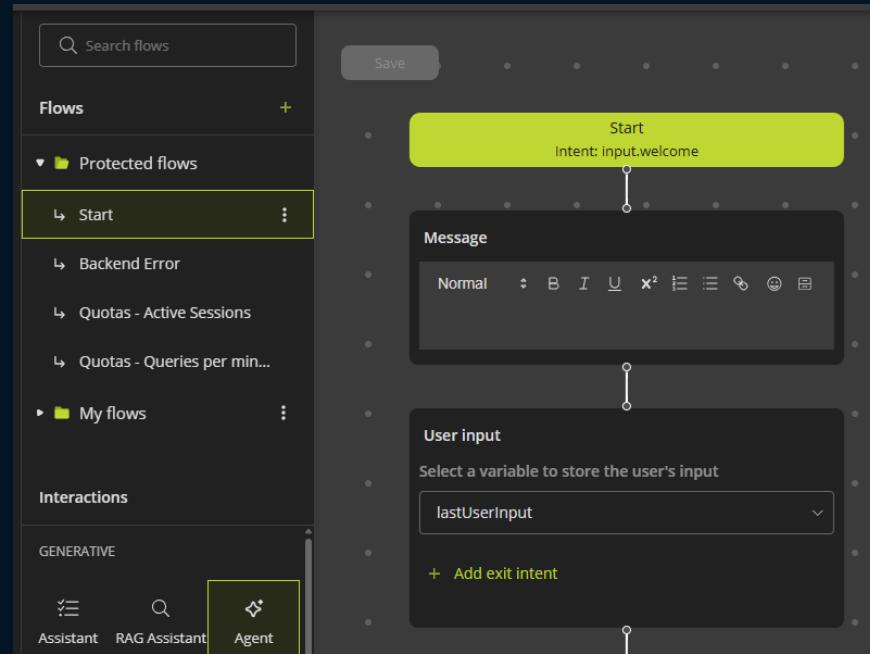
Flows:複数のAI AssistantやAgentを組み合わせ自動化

Flowsは、複数のAI AssistantやAgentをドラッグ＆ドロップで組み合わせ、条件分岐/スクリプト実行/外部API連携などを交えて、複雑な業務フローを自動化する機能です。

主な利点

ノーコードUI:
ビジネスリーダーから技術者まで、誰もが直感的にプロセスを設計可能。

確率論と決定論の融合:
LLMによる確率論的な判断と、API等による決定論的な処理を一つのワークフローに混在させることで、柔軟性と信頼性の両立を図る。



Flowsで実現する対話型UIとバックプロセスの革新

ChatFlowsの導入例



顧客サポート(E-コマース)
注文状況の確認、返品手続き
を24時間自動で対応する。



予約アシスタント(観光)
パッケージの選択から予約
までを対話形式でサポート



アポイント調整(医療)
患者の予約状況や医師の空き
状況案内を自動化し、管理業
務を削減。

AgenticProcessの導入例



市場調査の自動化
-「SNS情報収集Agent」
-「感情分析Agent」

⇒「レポート生成Agent」に
連携し、素早く情報を収集



保険契約管理の自動化
-「契約書情報収集Agent」
-「翻訳Agent」

⇒「システム入力Agent」に
連携し、データ登録を省力化



サポート対応の高度化：
-「問い合わせ内容分析Agent」
-「社内ナレッジ検索Agent」

⇒「メール回答作成Agent」が
最終回答を生成

再整理

- LLMは今後も多様化・進化を続けるため、マルチモデル前提のアーキテクチャが必須。
- エンタープライズ導入には、認証、セキュリティ、データ連携、ガバナンスを組み込んだAI基盤が不可欠。
- RAG、Assistant、Flow、AI Agentといった様々な要素を実際の業務フローへと統合できる。
- 目指すべきは「利用するLLMモデルは変わってもアーキテクチャは変わらない」設計思想である。

AI利用をPoC止まりにしないためには
基盤選定、設計こそ重要

マルチLLM x
セキュアなエンタープライズ基盤

Globant >
Enterprise AI

GeneXus Day 2026

Thank you